

Developing a scale for Japanese public health nurses supporting resident groups toward community-building

阿部, 朱美

<https://hdl.handle.net/2324/7182332>

出版情報 : Kyushu University, 2023, 博士 (看護学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



氏 名：阿部 朱美

論 文 名：Developing a scale for Japanese public health nurses supporting resident groups toward community-building

(住民グループが地域づくりに発展するための日本の保健師の支援尺度の開発)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

【目的】

本研究は、住民グループが地域づくりに発展するための保健師の支援尺度を開発し、その信頼性と妥当性を検証することを目的とした。

【方法】

第1段階で、地域づくりに発展した住民グループの支援経験を有する保健師11人を対象に半構成的インタビュー調査を行い、質的機能的に分析し、支援内容を整理した。専門家に内容妥当性の検討を依頼して、支援項目を修正し、最終的に40項目の尺度原案を作成した。

第2段階で、市区町村に勤務し、住民グループの支援経験を有する保健師1,924人を対象に自記式質問調査を行い、保健師の属性、支援した住民グループの発達段階、尺度原案、外的基準に関する項目を尋ねた。さらに、50か所の市町村の保健師を対象にテスト・リテストを行った。

この研究は、九州大学医系地区部局臨床研究倫理審査委員会の承認を得て行った（承認番号30-366、2020-491）。

【結果】

回収数は603件（回収率31.3%）であり、570件（有効回答率29.6%）を分析対象とした。項目分析で2項目を削除し、38項目についてアルファ因子法、プロマックス回転による因子分析を行った結果、30項目4因子を採用し尺度とした。4因子は「住民、グループ、行政とつながる機会の創出」、「組織力向上による活動の活性化の促進」、「安定した組織運営の推進」、「地域の健康課題と活動方針を見直す機会の提供」と命名した。尺度のアルファ係数は0.944、テスト・リテストの信頼係数は0.923であり、内的整合性と安定性が確認された。基準関連妥当性について、保健師専門職務遂行能力尺度との相関が認められた（ $r = 0.388$, $p < 0.01$ ）。既知グループ法では、発展あり群（地域づくりに発展した住民グループの支援経験を有する保健師）が尺度全体、第1因子、第2因子、第3因子において高い得点を示した。共分散構造分析による適合度指標は、GFI=0.835、AGFI=0.807、CFI=0.869、RMSEA=0.071であり、概ね適合を示していた。

【結論】

開発した尺度は、住民グループが地域づくりに発展することを支援する保健師の活動を測定する尺度として、一定の信頼性と妥当性を有すると考えられた。